

UTCPシンポジウム

# 『存在と時間』再考

## 門脇俊介の哲学から出発して

2010年7月30日(金) 17:00-20:00

東京大学駒場キャンパス18号館4階 コラボレーションルーム1  
使用言語：日本語 | 入場無料 | 事前登録不要

司会：小林康夫 (UTCP)

内外でハイデガー研究者として活躍した故門脇俊介元東京大学教授(前UTCP事務局長)のかつてのゼミ生が『存在と時間』のポテンシャルを再考する。

### 『存在と時間』と現象学の自然化

原塑 (東北大学)

### 認識から行為へ、そして触発へ——『存在と時間』第32-33節

村上靖彦 (大阪大学)

### 全体論的規範主義の可能性

飯嶋裕治 (東京大学)

### 汝自身であるものになれ——『存在と時間』から《出発》して

西山達也 (UTCP)

### 無関心・死・伝承——『存在と時間』の他者論へ

池田喬 (UTCP)

主催：東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)

Organized by The University of Tokyo Center for Philosophy (UTCP)

<http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/>

University  
of Tokyo  
Center  
for  
Philosophy